

# 大学で試合経験のある選手を対象にした心理的競技能力についての研究

## —内向的・外向的という選手の特性に着目して—

老田 佳世 (東京学芸大学)

### 1. 目的

本研究の目的は、選手の内向的・外向的という特性による、試合中の心理的競技能力の違いについての知見を得ることである。この目的を遂行するために、以下の研究論点（リサーチクエスチョン：以下、RQ）を設定した。

- RQ：内向的な選手と外向的な選手の間には、試合中の心理的競技能力にどのような違いがあるのか：「判断力」・「精神の安定性」・「勝利意欲」・「協調性」・「忍耐力」・「自己実現欲」の観点にもとづいて

### 2. 研究方法

#### 1) 対象者

東京学芸大学体育会部活動に所属する男女 159 名（男 78 名、女 81 名）を研究対象者とした。

#### 2) 調査方法

研究対象者に、心理的競技能力検査 DIPCA 改訂版（以下、DIPCA）と、選手の性格に関する 2 つのアンケート調査を行い、その回答を得点化して集計し、分析・考察を行った。

#### 3) 分析方法

内向的な選手・外向的な選手において、試合中の心理的競技能力の差を調べるために、DIPCA の因子ごとにそれぞれ対応のない t 検定を行った。

### 3. 結果と考察

DIPCA の総合得点で比較すると、1%の有意水準で、外向的な選手の方が高い得点を示した。また因子別では、「判断力」、「勝利意欲」、「協調性」は 1%の有意水準で、「忍耐力」については 5%の有意水準で、外向的な選手の方が高い得点を示した。

これには、外向的な人物の、客観性を重視し、外界に注意を向け、自分の全エネルギーをかけて対象に向かう、という特徴が大きく影響を与えたと考えられる。しかし、「精神の安定性」「自己実現欲」では有意な差は認められなかった。この 2 因子には競技歴の長さが大きく影響していると考えられる。今回の対象である大学体育会の選手は、比較的競技歴が長い人が多いため、有意な差が現れなかったといえるだろう。

### 4. 結論

#### 1) 得られた知見の要旨

心理的競技能力は、外向的な選手の方が内向的な選手に比べて高いことが分かった。また、DIPCA の各因子に着目してみると、「判断力」、「勝利意欲」、「協調性」、「忍耐力」の 4 項目で、外向的な選手の方が内向的な選手に比べて優れていることが分かった。しかし、「精神の安定性」、「自己実現欲」の 2 項目は、競技歴の長さが大きく影響しているため、選手の性格特性による有意な差は認められなかった。

#### 2) 本研究の制約と今後の課題

本研究は東京学芸大学の体育会部活動に所属する選手を対象としているため、他のスポーツ選手に今回得られた知見が当てはまるとは限らない。よって被験者を増やし再検討する必要がある。

### 5. 主な参考文献

- 1) 吉川眞理 (2011) : ユングによるパーソナリティ理論再考—自然のダイナミズムを手がかりとして—、学習院大学人文科学研究『人文』、(10) : 103-118.